



JSVR

日本バレーボール学会

The Japanese Society of Volleyball Research 29th Scientific Congress for Volleyball 2024

第29回大会

Road to 2030 世界最高峰の
バレーボールS-V. LEAGUEを目指して
～我々が向かうべき『未来を語る』～

会場：明治学院大学 白金キャンパス

日程：2024/3/18-19



主催：日本バレーボール学会
主管：日本バレーボール学会 第29回大会実行委員会

広告協賛企業一覧



ISO 9001

認証取得

生涯スポーツの創造



営業内容

- 学校体育衣料販売
- スポーツ用品全般販売
- 各種運動場設計・見積・施工
- 体育館器具設計・見積・施工
- 体育館床設計・見積・施工
- グラウンド保守サービス

日勝スポーツ工業株式会社

本社 〒154-0005 東京都世田谷区三宿二丁目 36 番 9 号

TEL 03-6805-2106 FAX 03-3410-7314 URL

<http://www.nissho-sports.com>

世田谷支店 足立支店 板橋支店 多摩支店 新潟支店

日本女子体育大学売店



目次

会長挨拶	4
組織委員会・実行委員会	5
これまでの大会	6
会場案内	9
参加者へのお知らせ	11
一般研究発表者へのお知らせ	12
一般研究優秀賞について	12
学会大会プログラム	13
特別講演	14
シンポジウム	15
オンコートレクチャー	20
一般研究発表プログラム・抄録	21
入会案内	38
広告協賛企業一覧	39

会長挨拶

日本バレーボール学会 会長
黒川貞生（くろかわ さだお）



日本バレーボール学会第 29 回大会を開催するにあたって

日本バレーボール学会第 29 回大会を、3 月 18 日・19 日の 2 日間にわたって、明治学院大学白金キャンパスを会場として開催できることとなり、日本バレーボール学会会長として大変嬉しく思います。同時に、本学会大会の開催に向けてご尽力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

さて、明治学院大学での日本バレーボール学会大会の開催は、2003 年・2004 年および 2016 年に引き続き 4 回目となります。今回の第 29 回学会大会のテーマは「Road to 2030 世界最高峰のバレーボール S-V. LEAGUE を目指して ～我々が向かうべき『未来を語る』～」です。初日の特別講演では、ジャパンバレーボールリーグチェアマンの國分裕之氏をお招きし S-V. LEAGUE の構想についてご講演をいただきます。続くシンポジウムでは、ジャパンバレーボールリーグ関係者にご登壇いただき、トップリーグの展望についての講演・質疑応答を展開します。中期計画「V. LEAGUE REBORN」では、2024-25 シーズンから新しい形のリーグをスタートさせ、2030 年までに「世界最高峰のリーグ」を目指すことが宣言されました。どのような新しい V リーグが実現されるのか、その理念、構想そして未来についてはどうなのか、会員の皆様にとって大変興味深い内容になると確信しています。是非ご期待ください。

また、2 日目には日ごろの研究の成果をポスターで発表する一般研究発表、ブロックのスキル向上にかかわるオンコートレクチャーも実施されます。併せて楽しみにしてご参加いただき、活発なディスカッションが繰り広げられ、研究やコーチングがさらに発展することを念じています。最後には、情報交換会もありますので、ふるってご参加ください。

ところで、今年は 7 月 26 日から 8 月 11 日にわたってパリ 2024 オリンピックが開催されます。我が国の男子代表チームのオリンピック出場は既に決定していますが、必ずや女子代表チームも出場できるものと思います。代表チームを含めトップチームがオリンピックや国内リーグで活躍する姿を子供たちが頻りに視聴し、バレーボールがさらに普及し、その後のカテゴリーのプレーヤーが活躍できる環境が益々改善されるという循環が生まれることが、持続的なバレーボールの発展のためには重要であると考えます。まさに、本学会大会のテーマは最後の部分に関わる内容です。本学会もこの循環の様々な分野で貢献できるよう引き続き活動を継続する所存です。

最後になりますが、明治学院大学の関係各位、実行委員の皆さま、そして講師として講演をお引き受けて下さいました諸先生方に厚く御礼を申し上げ、会長の挨拶と致します。



組織委員会・実行委員会

大会名誉会長（日本バレーボール学会名誉会長）

河合学（静岡大学）

大会会長（日本バレーボール学会会長）

黒川貞生（明治学院大学）

組織委員会

委員長：JSVR 会長

黒川貞生（明治学院大学・JSVR 会長）

副委員長：JSVR 副会長・理事長・副理事長

吉田清司（専修大学・JSVR 副会長），石手靖（慶応義塾大学・JSVR 副会長），

松井泰二（早稲田大学・JSVR 理事長），田中博史（大東文化大学・JSVR 副理事長）

委員：JSVR 理事

飯島康平（NSCA），石丸出穂（仙台大学），板倉尚子（日本女子体育大学），

内田和寿（京都光華女子大学），榎本翔太（岡山大学），小川宏（福島大学），

金子美由紀（名城大学），後藤浩史（愛知産業大学），高根信吾（常葉大学），

高野淳司（東北工業大学），高橋宏文（東京学芸大学）

中瀬巳紀生（香川高等専門学校），永谷稔（北翔大学），縄田亮太（愛知教育大学）

布村忠弘（北陸予防医学協会），根本研（日本体育大学），野口京子（長野大学）

橋本吉登（三ツ境整形外科），濱田幸二（鹿屋体育大学），安田貢（山梨学院大学）

湯澤芳貴（日本女子体育大学），横矢勇一（大東文化大学）吉田康成（四天王寺大学）

監事：JSVR 監事

古澤久雄（かのやスポーツ研究所），久保田もか（長崎大学）

実行委員会

委員長：濱田幸二（鹿屋体育大学）

副委員長：根本研（日本体育大学），板倉尚子（日本女子体育大学）

会計：高根信吾（常葉大学），総務委員会

総務：縄田亮太（愛知教育大学），沼田薫樹（鹿屋体育大学）

伊藤瑳良（明治学院大学）

申込受付：湯澤芳貴（日本女子体育大学），高根信吾（常葉大学），総務委員会

記録：高橋宏文（東京学芸大学），編集委員会

広報：内田和寿（京都光華女子大学），広報委員会

渉外：横矢勇一（大東文化大学），渉外委員会



これまでの大会

回	年月日	内容	開催場所
第 1 回	1996 年 5 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・内外バレーボールの動向と今日の課題 ・バレーボール史抄 ・日本における 6 人制バレーボールの原点 	早稲田大学
第 2 回	1997 年 3 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国のバレーボール政策と現状 ・21 世紀を目指したコーチング 	早稲田大学
第 3 回	1998 年 3 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・温故知新-歴史に学ぶ ・ルールを考える 	早稲田大学
第 4 回	1999 年 3 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ・'98 バレーボール世界選手権を語る ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ 	早稲田大学
第 5 回	2000 年 3 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール発展のための企業チームからの提言 ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ 	早稲田大学
第 6 回	2001 年 3 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・21 世紀のバレーボールの在り方考える ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ 	早稲田大学
第 7 回	2002 年 3 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールは変わるか ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ 	大阪体育大学
第 8 回	2003 年 3 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> ・日本バレーボール再建へのシナリオ ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ 	明治学院大学 白金キャンパス
第 9 回	2004 年 3 月 27・28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール学会の足跡と展望 ・オンコートレクチャー（セッターの系統的コーチング） ・ワークショップ ・一般研究発表 ・シンポジウムⅠ（バレーボールの授業展開を再考する） ・シンポジウムⅡ（コーチに要求される資質を再考する） 	明治学院大学 白金キャンパス
第 10 回	2005 年 3 月 26・27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・夢をかなえるバレーボール ・基調講演 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー 	東京女子 体育大学



第 11 回	2006 年 3 月 26・27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上のための育成システム ・フォーラム ・オンコートレクチャー ・一般研究発表 	慶應義塾大学 日吉キャンパス
第 12 回	2007 年 3 月 3・4 日	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代バレーボール選手の育成 ・フォーラム ・シンポジウム ・オンコートレクチャー ・一般研究発表 	大東文化大学 東松山 キャンパス
第 13 回	2008 年 3 月 22・23 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ひと、まち、地域を造るバレーボールの魅力 ・フォーラム ・オンコートレクチャー ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ 	筑波大学 つくば カピオホール
第 14 回	2009 年 2 月 28・3 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア育成のために…!わかりあえる仲間づくり ・基調講演 ・フォーラム ・一般研究発表 ・特別講演 ・オンコートレクチャー 	夙川学院 短期大学
第 15 回	2010 年 3 月 27・28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校および高等学校の現場を考える ・特別記念講演 ・シンポジウム ・ワークショップ ・フォーラム ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー 	文京学院大学 女子中学校 ・高等学校
第 16 回	2011 年 2 月 26・27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・性差を考慮したコーチングを考える ・基調講演 ・特別講演 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・フォーラム ・オンコートレクチャー 	日本女子 体育大学
第 17 回	2012 年 3 月 3・4 日	<ul style="list-style-type: none"> ・復興・再生におけるスポーツの貢献を考える ・フォーラム A・B ・シンポジウム ・オンコートレクチャー ・一般研究発表 	慶應義塾大学 日吉キャンパス
第 18 回	2013 年 2 月 23・24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・世界トップレベルから見た日本のバレーボールの現状と課題 ・基調講演 ・シンポジウム ・フォーラム ・一般研究発表 ・キーノートレクチャー 	武蔵丘 短期大学
第 19 回	2014 年 2 月 15・16 日	<ul style="list-style-type: none"> ・コーチング力を探る ・特別講演 ・シンポジウム ・ワークショップ ・フォーラム ・一般研究発表 	鹿屋体育大学
第 20 回	2015 年 3 月 7・8 日	<ul style="list-style-type: none"> ・RIO 2016 そして TOKYO2020 へ ~ブラジルに学ぶ~ ・特別講演 ・基調講演 ・シンポジウム ・フォーラム ・一般研究発表 	早稲田大学



第 21 回	2016 年 3 月 19・20 日	<ul style="list-style-type: none"> ・セッターに求められるスキルと戦術 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・フォーラム ・オンコートレクチャー 	明治学院大学 白金キャンパス
第 22 回	2017 年 3 月 11・12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・2016 リオ五輪を総括し, 2020 東京五輪を考える ・特別講演 ・基調講演 ・シンポジウム ・オンコートレクチャー 	国士舘大学 世田谷 キャンパス
第 23 回	2018 年 3 月 17・18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・東京五輪の先を見すえて ・特別講演 ・基調講演 ・シンポジウム ・オンコートレクチャー 	名城大学 ナゴヤドーム 前 キャンパス
第 24 回	2019 年 3 月 2・3 日	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの課外活動におけるコーチングを考える ・基調講演 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー 	山梨学院大学 甲府酒折 キャンパス
第 25 回	2020 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツによる地域貢献を考える ・一般研究発表 * コロナ禍により一般研究発表のみオンラインで実施 	愛媛大学 城北キャンパス
第 26 回	2021 年 3 月 21・31 日	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツによる地域貢献を考える ・特別講演 ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー 	オンデマンド
第 27 回	2022 年 3 月 5・6 日	<p>「東京 2020 オリンピックの振り返りとパリオリンピックに向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講演 ・シンポジウム ・一般研究発表 	鹿屋体育大学 オンライン
第 28 回	2023 年 3 月 4・5 日	<p>データの活用法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講演 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー 	仙台大学 仙台大学附属 明成高等学校
第 29 回	2024 年 3 月 4・5 日	<p>「Road to 2030 世界最高峰のバレーボール S-V. LEAGUE を目指して ~我々が向かうべき『未来を語る』~」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講演 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー 	明治学院大学 白金キャンパス
<p>※第 1 回から第 4 回までは「バレーボール研究会」として, 第 5 回から第 14 回までは「バレーボール学会」として, 第 15 回以降は「日本バレーボール学会」として学会の名称も変化しつつ今日まで継続的に開催してきた。</p>			



会場のご案内

明治学院大学（白金キャンパス）

〒108-8636
東京都港区白金台 1-2-37



品川駅から [JR 山手線 / 京浜東北線 / 東海道線 / 上野東京ライン / 横須賀線 / 東海道新幹線 / 京浜急行線] 高輪口より都営バス「目黒駅前」行きに乗り、「明治学院前」下車（乗車約6分） ※徒歩約17分

目黒駅から [JR 山手線 / 東急目黒線 / 東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線] 東口より都営バス「大井競馬場前」行きに乗り、「明治学院前」下車（乗車約6分） ※徒歩約20分

白金台駅から [東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線] 2番出口（白金高輪側 / エレベーター有）より徒歩約7分

高輪台駅から [都営地下鉄浅草線] A2出口より徒歩約7分

高輪ゲートウェイ駅から [JR 山手線 / 京浜東北線] 出口より徒歩約13分

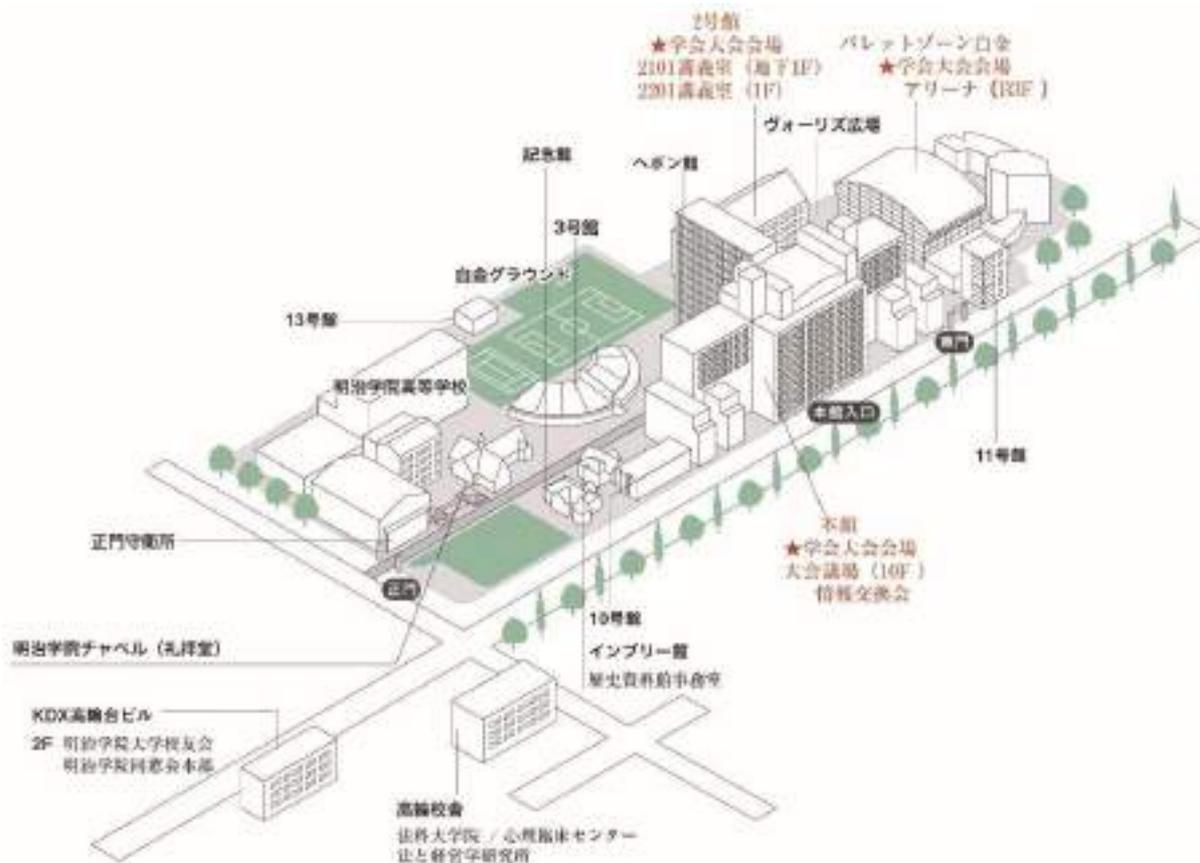
主要駅からのアクセス





会場のご案内

白金キャンパス案内



1日目

特別講演・シンポジウム：2号館 2101 講義室(地下1階)

2日目

一般研究発表会（ポスター）：2号館 2201 講義室(1階)

総会：2号館 2101 講義室(地下1階)

オンコートレクチャー：パレットゾーン白金 アリーナ（地下3階）

食堂

パレットゾーン白金（1階） 営業時間：11:30～13:30

参加者へのお知らせ

1) 参加受付

学会参加者は事前登録、当日登録ともに参加受付を行ってください。両日ともは 9:00~2 号館にておこないます。受付では、受付・大会参加費の支払い・ネームホルダーおよび領収書の受け取りを行ってください。事前登録を行い、既に大会参加費をお支払いの方はネームホルダーを受け取ってください（領収書は Peatix から取得）。ネームホルダーは、会場内において必ず着用してください。なお、1 日目に受付を済まされた方は、2 日目に再度受付をする必要はありません。

学生（大学生および大学院生）として参加申し込みされた方は、当日、受付で学生証の提示をお願いします。但し、高校生以下は無料（大会プログラムも配布）です。小、中、高校生を引率される指導者の方は事前に事務局へ御連絡ください。また、当日参加については受付に申し出てください。本学会大会の開催趣旨から参加費無料と致します。

2) 日本バレーボール学会の年会費

未払いの方は年会費をお支払いになり、領収書をお受け取りください。

3) 喫煙所

学内には喫煙場所が 1 か所あります（本館 北ウイング外部 1 階）。

4) 学内食堂（パレットゾーン白金）

3 月 18 日、19 日ともに 11:30~13:30 まで営業しています。

5) オンコートレクチャー（2 日目）

体育館で行いますので、体育館シューズをご準備ください。

6) 写真及び動画の撮影

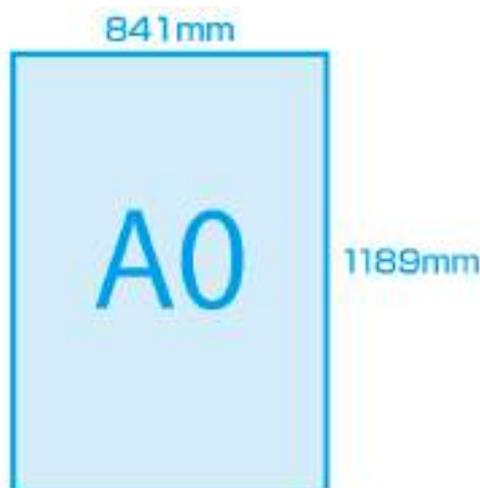
2 日間ともは出来ませんので、ご注意ください。

カテゴリ	参加費（事前登録）	参加費（当日登録）
学会員（一般）	2,000 円（1 日）	2,500 円（1 日）
学会員（学生）	無料	無料
非会員（一般）	2,500 円（1 日）	3,000 円（1 日）
非会員（学生）	1,500 円（1 日）	2,000 円（1 日）



一般研究発表者へのお知らせ

- 1) ポスターの推奨サイズは、下記図のように A0 サイズとなります。演題、演者氏名、共同研究者氏名および所属機関はポスター上部に入れてください。また、ポスターを掲示するための画鋏などは準備しております。
- 2) ポスターは 1 日目（3 月 18 日（月））の受付後から掲示が可能です。ポスターの掲示は、できるだけ受付後におこない、発表終了後、撤去をお願いします。パネルの片付け時に残っていたポスターは事務局で処分します。
- 3) ポスターパネルには演題番号を記しておきますので、ご指定のパネルにポスターを掲示してください。
- 4) ポスターの発表時間は 3 月 19 日（火）9:30~11:00 になります。その時間帯はポスターの前で待機をし、質問者に対しての対応をお願いします。
- 5) 配布資料がある場合は資料を 30 部程度ご持参ください。なお、大会当日事務局においてコピーのサービスは対応できませんので予めご了承ください。



一般研究優秀賞について

日本バレーボール学会第 29 回大会一般研究優秀賞（JSVR 29th Scientific Congress for Volleyball Award）を優秀な研究を発表した者（若干名 研究発表が連名の場合、筆頭著者）に授与する。結果は JSVR ホームページで公表し、賞状および副賞を贈呈します。



学会大会プログラム

1 日目 (2024 年 3 月 18 日)

09:00～ 受付開始

10:00～ 開会の挨拶

10:15～11:45

特別講演「なぜ世界最高峰のリーグを目指すのか -V. LEAGUE REBORN について-

國分裕之 氏 (一般社団法人ジャパンバレーボールリーグチェアマン)

11:45～14:00 ランチタイム

14:15～16:15

シンポジウム「トップリーグの展望」

釜淵俊彦 氏 (一般社団法人ジャパンバレーボールリーグクラブライセンス事務局)

堺 大輔 氏 (V1:東京グレートベアーズ GM)

降旗雄平 氏 (V1:ヴォレアス北海道 GM)

中西了将 氏 (V1:NEC レッドロケッツ GM)

佐藤嗣朗 氏 (V1:埼玉上尾メディックス GM)

司会 濱田幸二 (JSVR 理事、鹿屋体育大学)

16:15～18:00 情報交換会

2 日目 (2024 年 3 月 19 日)

09:00～ 受付開始

09:30～11:00 一般研究発表会 (ポスター)

11:15～12:00 総会

12:00～13:15 ランチタイム

13:15～15:00

オンコートレクチャー

「ブロック練習が楽しくなるには? 初心者からトップカテゴリーまで、ブロック動作習得とトータルディフェンスの鍵」

布村 忠弘 氏 (一般財団法人北陸予防医学協会)



特別講演

一般社団法人ジャパンバレーボールリーグ チェアマン
國分裕之（くにぶ ひろゆき）



<経歴>

- 1982 年 3 月 東京大学経済学部卒業
- 1982 年 4 月 全日本空輸(株)入社 (本部・本社管理部門他)
- 2012 年 4 月 全日本空輸(株) 人事部長兼 A N A 人財大学長
- 2016 年 4 月 全日本空輸(株) 取締役執行役員 人財戦略室長兼 A N A 人財大学長
- 2018 年 9 月 日本バレーボールリーグ機構 理事
- 2019 年 4 月 全日本空輸(株) 取締役常務執行役員 広報部・貨物事業室・ABB 担当
- 2020 年 9 月 日本バレーボールリーグ機構 理事副会長
- 2021 年 5 月 日本バレーボールリーグ機構 代表理事会長
- 2021 年 6 月 日本バレーボール協会 理事
- 2022 年 4 月 全日空商事(株) 代表取締役社長

なぜ世界最高峰のリーグを目指すのか -V. LEAGUE REBORN について-

私たちジャパンバレーボールリーグ(JVL)は、現在リーグ改革『V. LEAGUE REBORN』を進めており、2024年のシーズンより新リーグ(S-V. LEAGUE, (新)V. LEAGUE)をスタートします。

REBORNでは、Vリーグの持つ高いポテンシャルを発揮し、2030年には世界最高峰のリーグとなることをビジョン(~GO FOR 2030~)として掲げています。この中心的な役割を担うのがS-V. LEAGUEであり、(新)V. LEAGUEはより地域と連携・共生し基盤固めを行うリーグとなります。

過去にも改革に着手してきましたが、環境が整っていなかったこともあり、関係者のベクトル合わせがうまく出来ずに実現できておりません。

代表チームの人気・学生バレーの熱気がVリーグに繋がっていない。また、他のリーグにかなり先行されているという課題認識・危機意識のもと、今回がJVLにとって最後の改革のチャンスであることを関係者の間で共有化し、リーグを挙げて背水の陣で臨んでいます。

本講演では、これまでの改革の振り返りと、なぜ今REBORNに臨むのかについてその背景と取り組み内容をご紹介します。



シンポジウム

一般社団法人ジャパンバレーボールリーグ
クラブライセンス事務局
ライセンスマネージャー
釜淵俊彦（かまぶち としひこ）



〈経歴〉

2000 年 J.F.K Memorial High School 卒業
2005 年 滋賀大学 卒業
2008 年 株式会社滋賀レイクスターズ 入社
2012 年 公益財団法人滋賀レイクスターズ 設立
2014 年 株式会社滋賀レイクスターズ 取締役 就任
2020 年 同 代表取締役社長 就任
2023 年 同 代表取締役社長 退任
2023 年 7 月 現職

スポーツの力をより良い社会のために活用できるという信念を持って、スポーツビジネスに従事して 16 年。スポーツの持つ力、あるいはプロアスリートやプロスポーツチームの持つ影響力、こういったものが自身の幼少期の成長過程に不可欠であったことは疑う余地もなく、今でもスポーツが常にそばにあり、人生に彩りを与えてくれています。

自ら実施するものとしても鑑賞するものとしても、古今東西・老若男女に対するスポーツの影響力は、そのインパクト、範囲、汎用性において絶大です。このスポーツの力を有効活用する、もしくはさらに増大させるために自分自身がテーマにしているのが「スポーツビジネスの産業化」と「まちづくり」です。私がスポーツビジネスを志した時は、サステナブルとは程遠い、善意と奉仕の精神が主流で、いわゆる「やりがい搾取」が横行しており、それに耐えられない優秀な人材が去って行く光景を何度も目の当たりにしました。

いかにして優秀な人材をこの業界に呼び込むか、そして定着させるか、要はスポーツビジネスを産業として成立させるか。それこそがスポーツの持つ力の増大と社会へ還元するための基盤であると考えています。

また、試合の勝ち負けだけがスポーツの価値ではなく、その周辺で生み出される様々なエネルギーにこそ価値があり、そのエネルギーが新たなまちづくりの源泉になることは歴史が証明しています。

クラブのファンやスポンサーだけではなく、自治体や事業者を巻き込んで、持続可能な魅力あるまちづくりに貢献できるクラブが全国各地に誕生することを願っています。

健全な競争がなければ健全な成長はなく、そのために V.LEAGUE REBORN があるとも言えます。言い換えると、不健全な安住が不健全な停滞を生み出すということを戒めに、バレー界は前進をしなければなりません。



シンポジウム

株式会社 VOREAS 取締役
トップチーム「ヴォレアス北海道」ゼネラルマネージャー
降旗雄平（ふりはた ゆうへい）



〈経歴〉

1985 年 2 月 1 日生まれ 38 歳。北海道函館市出身。競技歴は函館中部高校(サッカー)～北海学園大学(アメリカンフットボール)。北海学園大学経営学部(1 期生)卒業後、2007 年に旅行会社大手に就職。札幌圏を中心に、全国各地のコンサート・ライブ系の各種ツアーを企画する営業マンとして従事。旭川への転勤後、ヴォレアス北海道が誕生。それまでに培ったノウハウを生かし、スポンサー企業の一員としてチームの様々な活動に関わる。転勤を機に退職を決意し、2018 年 11 月に株式会社 VOREAS 入社。プロジェクトマネージャーとして、HG 運営他、各種業務に携わる。2019 年 6 月、取締役役に就任し、トップチームのゼネラルマネージャーを拝命。2021 年度トップリーグ連携機構杯を受賞(バレー部門優秀 GM 賞)。V2 準優勝 2 回・優勝 2 回、2022-23 シーズンでは 4 年越しの目標「V1 昇格」を果たした。



シンポジウム

株式会社 グレートベアーズ 取締役
東京グレートベアーズゼネラルマネージャー
堺大輔（さかい だいすけ）

1979 年 5 月 14 日生まれ 44 歳。福岡県福岡市出身。

<経歴>

■学歴 福岡県立修猷館高校 →早稲田大学理工学部機械工学科

■職歴 2002 年 株式会社ネイチャーラボ 入社

2021 年 株式会社グレートベアーズ 取締役

■東京グレートベアーズとは

東京グレートベアーズは、FC 東京バレーボールチームの休部に伴い、2022 年 6 月に株式会社ネイチャーラボへの全体譲渡により発足した、プロバレーボールチームです。

■クラブコンセプト

VOLLEYBALL DREAM™（バレーボールドリーム）バレーボールで夢を叶えたい人たちのためのクラブになる。

■クラブ理念

ひとに強さを（STRENGTH TO HUMANITY）

ネイチャーラボの企業理念である「ひとに強さを」をクラブ理念として、バレーボールを通じて「勝利への執着心」「諦めない意志」「チームワークの大切さ」を社会に発信する。

■活動方針

・クリエイティブインパクト

一流クリエイター陣と共に、バレーボールをより楽しく魅力的に発信する

・世界視野

世界基準で戦える選手育成や国内外での国際親善試合など視野の広いクラブ運営を推進する

・プロとして

ファンの方々やスポンサーなど、支えてくださっている皆様に還元できよう努力する

・東京と共に

FC 東京時代から続く年間 1 万人以上へのバレーボール派遣指導、有明コロシアムや東京体育館など東京でのホームゲーム開催、ボランティア活動などを通じて東京と共に歩む



シンポジウム

日本電気株式会社スポーツビジネス統括部
NEC レッドロケッツゼネラルマネージャー
中西了将（なかにし りょうすけ）



<経歴>

- 学歴：東海大学付属第四高（現：東海大学付属札幌高）→法政大
- 資格：日本スポーツ協会公認コーチ 4
- 職歴：2005～2009 年 NEC 入社・NEC ブルーロケッツ 選手
2009～2017 年 金融 IT ビジネスに関する営業職
2017～2020 年 NEC レッドロケッツ コーチ
2020 年～ NEC レッドロケッツ マネジメントスタッフ

NEC レッドロケッツは、1978 年に創部。現在は、V.LEAGUE DIVISION1 WOMEN (V1 女子) に加盟する女子バレーボールチームで、日本リーグ：優勝 1 回、Vリーグ：優勝 7 回、黒鷲旗：優勝 2 回、皇后杯：優勝 2 回の実績がございますが、2021 年に、これまでの歴史を継承しながら、更なる進化（事業化）を遂げるためスポーツビジネス準備室を立上げ、チームのリブランディングを実施。ホームタウンを神奈川県川崎エリア、東京エリアとし活動しております。また、チームのエンブレムであるロケット胴体部の三層のラインは、ロケットに搭乗しているチーム、サポーター、コミュニティを表現し、チームに関わるすべての皆さまに愛され、必要とされる欠かせない存在になることを目指しております。掲げている Philosophy は以下のとおりです。

<理念> スポーツを通じてよりよい社会づくりに貢献し、NEC ロケッツに関わる全ての皆さまに愛され必要とされる存在になる

<ビジョン> CONNECT（つなぐ） <スローガン> Always above!（常に上昇せよ!）

<行動規範>

- 視線は外向き、未来を見通すように～固定概念に捉われずに世界基準の視点で未来を見据える～
- 思考はシンプル、戦略を示せるように～勝利はすべての源すべての行動は勝つためにある～
- 心は情熱的、自らやり遂げるように～「挑戦」と「ハードワーク」をキーワードに最後まで諦めない姿勢を見せる～
- 行動はスピード、チャンスを逃さぬように～躊躇は最大の敵スピード感をもって動く～
- 組織はオープン、全員が成長できるように～「ONE TEAM」全員がチームに欠かせない存在であり全員がチームの中で役割があることを認識する～

また、2022 年に、地域におけるより良い社会づくりに貢献するためのプロジェクトも立ち上げました。

■プロジェクト名：「R-CONNECTION」について

・一人ひとりが平等で権利や機会を分かち合う社会（インクルージョン）づくり
・人々の心と身体の健康づくり ・環境にやさしいまちづくりなどの社会課題解決の実現を目指すため、スポーツを通して人と未来をつなげ、より良い社会づくりに貢献するプロジェクト、これが「R-CONNECTION」です。あらゆる人々一人ひとりが輝く社会となるために、NEC ロケッツが人やコミュニティ、そして社会をつなぐ“懸け橋”（CONNECTION）となる！「R-CONNECTION」には、このような想いが込められております。自分たちの出来ることから積極的に取り組み、そして、私たちだけではなく、応援して下さるファンの皆さまやサポートしていただくパートナー企業様、自治体、地域の皆さまのご協力を得ながら、年間約 50 回以上の活動に取り組んでおります。かわさきゴールドパートナーへの認定も受け、これらの活動を通して、持続可能な開発目標（SDGs）達成にも貢献してまいります。今回のシンポジウムにおいては、未来の日本バレー界並びに V.LEAGUE を皆様とともに意見交換をできればと存じます。どうぞよろしくお願い致します。



シンポジウム

埼玉上尾メディックスゼネラルマネージャー
 一般社団法人上尾中央医科グループ協議会
 埼玉上尾メディックス事業部室長
 佐藤嗣朗（さとう しろう）



〈経歴〉

大学卒業後 日本文化出版株式会社入社。月刊バレーボール編集部配属。
 2007 年～2010 年 月刊バレーボール編集長
 2011 年～2020 年 一般社団法人日本バレーボールリーグ機構
 （現・一般社団法人ジャパンバレーボールリーグ）
 広報マネージャー，競技マネージャー，新リーグ準備室室長
 2020 年～2022 年 埼玉上尾メディックスゼネラルマネージャー補佐
 2023 年～ 現職
 2023 年 9 月～ 一般社団法人ジャパンバレーボールリーグ監事

バレーボール業界に入って 35 年。様々な分野で携わってきました。その経験を活かし現在は女子 DIVISION 1 に所属する埼玉上尾メディックスを「企業スポーツ」から「スポーツ企業」に変革させることに従事しています。

弊チームは「医療グループ（上尾中央医科グループ協議会）」を母体として発足したチームです。各業界の大企業が主な V. LEAGUE の中で、異色のチームであります。成り立ちは約 2 万人いる社員の士気高揚として行われていたグループ内のバレーボール対抗戦が盛り上がり、各病院がバレーボール経験の豊富な看護師の方々を採用して競うようになりました。「一度、その人達を集めてどこまでやれるかやってみよう…」ということから、実業団に登録しそこからは短期間で駆け上がり、今ではトップライグの上位に顔を出すようになりました。

昨年、その創始者である中村秀夫名誉会長が逝去し、同時に JVL が SV リーグ構想を掲げ新たなリーグへチャレンジをするのか…という課題に直面しました。世の中は数年にわたるコロナ禍で医療グループも大きな変革を迫られており、その傘下の埼玉上尾メディックスも例外ではありませんでした。それでも中村康彦会長、久保田巧総局長を中心に「やるからにはトップを目指そう」という暖かいお言葉をいただき、現在、本格的に変革へ向けて動き出しています。

その課題として、

1. 埼玉上尾メディックスを利益の生む集団に変えること→株式会社の設立，専任人材の確保
 2. S-V リーグのライセンス規定に沿った施設を揃えること→5,000 人規模のアリーナの確保，常時練習ができる体育館の確保など
 3. 地域との更なる連携と知名度のアップ→上尾市を中心とした埼玉県央地区との連携
 4. 常勝チームとなるための強化体制→リーグ優勝達成，日本を代表する選手の育成
- 柱となる課題は上記の 4 つとなりますが、他チームに比べて脆弱さは否めません。今はようやくスタートラインについたばかりですが、埼玉県から日本を代表するチームを目指します。

今回のシンポジウムにおいては、未来の日本バレー並びに S-V. LEAGUE を皆様とともに意見交換をできればと存じます。どうぞよろしくお願い致します。



オンコートレクチャー

一般財団法人 北陸予防医学協会
布村忠弘（ぬのむら ただひろ）



経歴

1984年 3月 金沢大学大学院医学研究科博士課程（生理学専攻）修了
1984年 4月 金沢大学助手医学部（生理学）（1987年3月まで）
1987年 4月 金沢大学附属病院・舞鶴共済病院・福井循環器病院（内科）
1989年 5月 富山大学教養部助教授（保健体育）
2001年 8月 富山大学教育学部教授（保健体育）
2005年 10月 富山大学人間発達科学部教授（2021年3月31日まで）
2021年 4月 富山大学名誉教授
2023年 4月 一般財団法人 北陸予防医学協会 入社

学会および社会における活動

1995～2009年 男女ユース・ジュニア・シニア全日本チームドクター
2001～2021年7月 Vリーグ KUROBE アクアフェアリーズチームドクター

資格等

日本スポーツ協会公認スポーツドクター・アスレティックトレーナー・バレーボールコーチ 1
フェルデンクライス・メソッドおよびシェルハブ・メソッド国際公認指導者

著書・論文等

2010年 スパイクスイングの分類 Volleypedia バレーボール百科事典 36-37
2011年～2012年 月刊バレーボール スター選手の「あたりまえ」に挑戦 連載
2012年 日本文化出版 MOOK Volley pedia ver1.2 日本バレーボール学会・編
2015年 DVD『動作の原理』を理解すれば、誰でも簡単に身につけられる「バレーボールの基本技術」
2017年 コーチングバレーボール 日本バレーボール協会編：第5章-1執筆，第5章-2～7編集

タイトル：「ブロック練習が楽しくなるには？初心者からトップカテゴリーまで，ブロック動作習得とトータルディフェンスの鍵」

現代バレーで求められている【リードブロック】のために必要な動作【スイングブロック】と【スプリットステップ】について，その必要性と習得の鍵を解説します。ブロックは，プレーの成功失敗が分かりにくく，上達が見えにくいという特徴がありますが，「できるべきこと」が分かると「できるようになる喜び」が感じられるようになります。ブロックの【動作原理】に従って「できるべきこと」を整理することで，「今何ができれば成功なのか」を考えられるようになります。さらに，【ディガーからのフィードバック】も「ブロックの成否」を知るために重要です。また，トップレベルで取り組むべきことは初心者レベルでも取り組めることも，理解していただけたらと思います。



一般研究発表プログラム・抄録

演題番号 No. 1

正確なレセプションはスパイクの結果を左右するのか
～FIVB パリ五輪予選 ワールドカップバレー2023 女子日本代表のデータから～
○佐藤文彦(株式会社 DELTA)

演題番号 No. 2

高校生男子バレーボール選手における腰部のスポーツ外傷・障害発生率の調査
○トラルバ ラフランキ マウリセ エドゥアルド(鹿屋体育大学体育学研究科)
藤田英二(鹿屋体育大学)

演題番号 No. 3

画像処理によるバレーボール競技分析の高速入力インターフェースの提案
○森富稀(愛知工業大学), 澤野弘明(愛知工業大学)

演題番号 No. 4

地方学連選抜の短期間でのチームづくりに関する実践報告
○村川誠(福岡教育大学), 濱田幸二(鹿屋体育大学), 篠木賢一(西南女学院大学)
沼田薫樹(鹿屋体育大学), 金森晴香(九州共立大学), 坂中美郷(鹿屋体育大学)

演題番号 No. 5

バレーボールにおける局面と組み合わせを考慮したローテーションの重要性の定量的分析
○福嶋克茂(静岡大学大学院), 一ノ瀬元喜(静岡大学)

演題番号 No. 6

ビーチバレーボールに関する研究
ー砂地を利用した新たなトレーニングメソッドの開発ー
○佐藤国正, 溝上拓志, 桜井智野風(桐蔭横浜大学), 白鳥歩(日本体育大学)

演題番号 No. 7

大学男子バレーボール選手におけるマウスガードの有無がメディシンボールスローに与える影響
○佐藤裕務(NSCA ジャパン), 松井泰二(早稲田大学スポーツ科学学術院)
太田武雄(ホワイト歯科), 武田友孝(東京歯科大学), 中島一憲(東京歯科大学)
林光俊(杏林大学医学部付属病院)



演題番号 No. 8

女子 V リーグと大学を対象としたレセプションアタックにおけるレフト攻撃の成否に関わる
要因：インシステムとアウトオブシステムに着目して

○田中響，大工園彩夏（鹿屋体育大学大学院）
沼田薫樹，坂中美郷，濱田幸二，高橋仁大（鹿屋体育大学）

演題番号 No. 9

中学生女子バレーボール部を対象としたオンライン型部活動支援への試み
—その 1：動画作成・YouTube 配信—

○高根信吾（常葉大学），大浜三平（NPO 法人スマイルクラブ）
塚本博之（静岡産業大学），松井泰二（早稲田大学）

演題番号 No. 10

バレーボール界ではなぜ専門シューズを履かない選手が多いのか
～複数のシューズを履いた時の跳躍高・地面反力の検討～

○原結実香（東海大学大学院），小澤悠（東海大学），藤井壮浩（東海大学），小澤翔（東海大学）

演題番号 No. 11

バレーボール特有のバックスイングを用いた跳躍と肩関節機能の関連

○板谷颯，築瀬康（同志社大学）

演題番号 No. 12

バレーボールコート後方からの映像による V リーグ男子選手のスパイク動作分析

○村本名史（常葉大学），佐藤重芳（茨城県立筑波高等学校）

演題番号 No. 13

アンダーハンドパスをもちいたパスのばらつき特性と競技特性との関係

○小澤悠（東海大学）

演題番号 No. 14

V リーグに加盟する企業スポーツチームの経営に関する研究-GSV の視点から

○武田義也（富山大学大学院）

演題番号 No. 15

バレーボール競技における攻撃参加人数とブロック動作反応時間の関係

○黒川貞生（明治学院大学），榎本翔太（岡山大学）



正確なレセプションはスパイクの結果を左右するのか ～FIVB パリ五輪予選 ワールドカップバレー2023 女子日本代表のデータから～

○佐藤文彦(株式会社 DELTA)

キーワード：レセプション, Play-by-Play データ, FIVB パリ五輪予選, ワールドカップバレー 2023

2023 年のワールドカップにおいて、女子日本代表は惜しくもオリンピックの切符をつかみ損ねた。この TV 中継で A パスの重要性を図解付きで強調していた。一般に、レセプションの精度はその後の攻撃の成否に重要な意味を持つと考えられ、重要なプレーであると考えられる。一方で、佐藤・渡辺(2015)は、レセプションの精度が高いことがスパイクや試合の結果に及ぼす影響は小さいことを報告している。

こうした先行研究があることから、中継での A パスの強調も先行研究の結果よりも一般的なイメージが先行しているのではないかと考えたが、先行研究の分析の対象としたのは 2009 年から 2012 年までの FIVB の主要大会のデータで、10 年以上前のものとなってしまっている。この 10 年でレセプションの精度に求められるものが変わった可能性は考えられないだろうか。

そこで本研究では、2023 年のワールドカップのデータを対象に、改めてレセプションの精度とスパイクの結果の関係を検証することを目的とした。

分析対象は、2023 年の女子ワールドカップの Play by Play データを用い、レセプションの精度(Perfect, Positive, Negative, Near 10ft Line)と、そこから続くスパイクの結果との関係を分析した。

本研究のセールス・ポイント

バレーボールのデータは、Box Score と呼ばれる 1 試合分の記録が多い。このデータは、レセプションからのスパイクと他のスパイクの記録が混在してしまう。本研究では 1 プレーごとの記録である Play by Play データを用いてこの問題を解決した。

高校生男子バレーボール選手における腰部のスポーツ外傷・障害発生率の調査

○トラルバ ラフランキ マウリセ エドゥアルド (鹿屋体育大学体育学研究科)

藤田英二 (鹿屋体育大学)

キーワード : 障害調査, Player Hour, Athlete Exposure

目的

高校生男子バレーボール選手における腰部のスポーツ外傷・障害発生率の調査を行う。

方法

対象は、地区上位レベルの男子高校生バレーボール選手 73 名とした。調査期間は令和 4 年 6 月から令和 5 年 6 月までの 1 年間とした。調査の方法は紙媒体のチェックシートを用いて、各チームの監督と選手に対して毎日トレーニングと試合参加に関する情報、ならびにスポーツ外傷・障害発生に関する記録を依頼した。得られたデータから 1,000 時間あたり (1,000 Player Hour: PH)、ならびに 1,000 プレー参加あたり (1,000 Athlete Exposure: AE) でのスポーツ外傷・障害発生率を算出した。

結果と考察

1 年間でのプレー参加時間は 50,777.0 時間、プレー参加回数 (AE) は 16,211 回であった。バレーボールのプレー中に発生したスポーツ外傷・障害は全体で 22 件であり、その発生率は 0.41/1,000PH ならびに 1.3/1,000AE であった。うち、練習中の発生は 19 件で、試合中の発生は 3 件であった。最も頻繁に発生した部位は足関節 (6 件) であり、次いで腰部の発生 (5 件) が多かった。腰部のスポーツ外傷・障害のすべては練習中に発生し、その発生率は 0.10/1,000PH、0.31/1,000AE で、重症度の比較では、non-time loss が 3 件、time loss が 2 件であった。また、腰部に発生した 5 件のうち 4 件は負荷の反復による緩徐発症であった。高校生を対象とした先行研究 (Azuma et al., 2019) に比べ、今回我々が調査したスポーツ外傷・障害の発生率は、全体ならびに腰部においても低かった。これは、対象とした高校生バレーボール選手の競技レベルの違いから生じるものと思われた。しかしながらスポーツ外傷・障害が多く発生する部位、ならびに外傷と障害の傾向については、ほぼ同様であった。

結論

高校生男子バレーボール選手における腰部のスポーツ外傷・障害発生率は、足関節の外傷に次いで 2 番目に多く、そのほとんどが負荷の反復による障害としての発症であった。これらのことから高校生バレーボール選手に発症する腰部障害は、競技レベルにかかわらず正しいフォームの習得や適切な体幹トレーニングの実施により予防できる可能性が示唆された。

本研究のセールス・ポイント

これまでの研究で、バレーボール選手の障害調査を行っている研究はいくつか報告されているが、日本の高校生を対象とした長期間にわたる障害調査の報告は少ない。そこで本研究では高校生男子バレーボール選手を対象とし、腰部のスポーツ外傷・障害を中心に 1 年間の障害調査を行った。

画像処理によるバレーボール競技分析の高速入力インターフェースの提案

○森富稀(愛知工業大学), 澤野弘明(愛知工業大学)

キーワード：映像分析, 画像処理, インタフェース

バレーボール競技では、情報分析はプロスポーツだけではなく、アマチュアスポーツのクラブでも導入されてきた。

情報分析では、手入力による情報入力は膨大であり、入力作業では始めから映像を閲覧し分析者が映像の重要なプレーイベントを記録するため停止するため、試合時間の 2 倍程度を要する。そこで本研究では、画像処理を組み合わせた高速入力インターフェースを提案する。

まず、本研究で画像処理を用いて取得するラリー開始時刻とスパイク開始時刻の推定手法を提案する。ラリー開始時刻の検出手法では、サーブ前に選手の動きが一時的に停止する特徴を利用する。競技映像における連続するフレーム間の差分画像を生成し、時系列での選手の静止する時刻を検出する。選手の移動が少なくなる瞬間を検出することで、ラリー開始時刻を推定する。スパイク時刻の推定には、深層学習を用いた選手検出とネット上部における選手の移動量を用いた手法を提案する。提案手法では、選手検出には物体検出アルゴリズムである YOLOX を用い、スパイク時刻の推定には、ネット上における選手の移動量を用いて、トス・スパイクなどのイベントを検出し、イベント発生時のフレーム（静止画像）を画像分類器に入力することでスパイク時刻を推定する。実験結果から、ラリー開始推定では適合率が 0.73、再現率が 1.00 を示した。スパイク時刻推定では、適合率 0.80、再現率 0.65 となった。

つぎに、高速入力インターフェースでは、画像処理で取得した、開始時刻を用いて、分析を行う時刻まで、映像をスキップする機能を実装した。また、分析入力項目は Volley Station を参考にした。この機能により、分析者は重要なプレーイベントの開始時刻を目視で映像を停止する必要がなくなり、映像分析の効率化が期待される。

今後の課題として、スパイク時刻推定の再現率を向上させるために、深層学習を用いたモデルの改良を行う。トスやレシーブなどのプレーシーンを推定するために、ボールの軌道を求める手法を検討する予定である。また、本稿で提案したインターフェースと既存の分析アプリケーションの入力時間を、バレーボール経験者を対象に比較実験する予定である。

本研究のセールス・ポイント

本研究は、バレーボール競技の映像分析を効率化するため画像処理を用いた入力インターフェースを提案する。画像処理を用いて、ラリー開始時刻とスパイク開始時刻を自動で推定することで、分析者は映像をスキップして重要なプレーイベントに直接アクセスでき、分析時間を短縮する。

地方学連選抜の短期間でのチームづくりに関する実践報告

○村川誠(福岡教育大学), 濱田幸二(鹿屋体育大学), 篠木賢一(西南女学院大学)
沼田薫樹(鹿屋体育大学), 金森晴香(九州共立大学), 坂中美郷(鹿屋体育大学)

キーワード：選抜チーム, チームづくり, コーチング, トータルディフェンス

諸言

バレーボールのチームづくりに関する事例研究は, 大学チームを対象とした研究が多く, チームの 1 年間の活動や大会までの一定期間を対象にしたものが多い(吉田, 1993; 中西, 2002; 濱田, 2002; 箕輪, 2002; 今丸, 2010). 選抜チームのチームづくりに関する研究は箕輪・松本(2015)が大学選抜を対象に指導の資料を彫りために行なったものが存在する. 一方でチームづくりに関する研究は, 各チームの機密情報として扱われることが多く, 公開されることが少ないことが現状である. 本研究は 2023 年度第 24 回西日本大学バレーボール学連女子選抜対抗戦(以下選抜対抗戦)に臨んだ九州選抜女子チーム(九州選抜)の事前合宿から大会までのチームづくりの過程を検討し, コーチングの資料を得ることを目的とした.

方法

研究対象は選抜対抗戦における九州選抜チームとし, 選手選考から大会終了までのチームづくりに関する活動に着目した. 2023 年度の九州選抜は団長 1 名, 監督 1 名, コーチ 2 名, トレーナー 1 名, マネージャー 1 名, 選手 14 名で構成された.

研究概要

活動期間は, 選手選考, スタッフミーティング, 事前合宿, 大会の全ての期間を対象とした. また, 事前合宿および大会期間中の練習内容, スタッフ間のミーティングや課題の認識はコーチが記録していたノートをもとに行った. 選手選考後のスタッフミーティングで定めたチームビジョンを達成のための練習内容と大会最終日の順位決定戦のゲームパフォーマンス分析からコーチングの省察を行った.

結果および考察

チームが設定した攻撃指針とトータルディフェンスの戦略において, ゲームパフォーマンスの分析結果から双方で明確な成果が見られた. チーム全体のルールを強調するために独自に考案した Task Game による意識付けがディフェンスにおけるチームルールの浸透やチーム内での共通認識の形成に貢献したと考察できる.

まとめ

提示したチームビジョンは, ゲームパフォーマンスの分析結果に基づく省察を通じて, 一定の成果があった. 本研究から, 短期間でのチーム形成においては, チームの活動の初めの段階から具体的かつ明確な方針の設定とそれに基づく準備が不可欠であることが再認識された.

本研究のセールス・ポイント

本研究は数少ないチームづくりの事例に関する研究である. 短期間の活動ながらもスタッフがどのような意図を持ってチームづくりを行ったのか, 選手に戦術を落とし込む過程でどのような取り組みをしたのかを詳細に記述したものであり, バレーボールのコーチングにおいて非常に有益な事例研究であると考えられる.



バレーボールにおける局面と組み合わせを考慮した ローテーションの重要性の定量的分析

○福嶋克茂（静岡大学大学院），一ノ瀬元喜（静岡大学）

キーワード：バレーボール，ローテーション，サイドアウト，ブレイク，データ分析

バレーボールにおいてローテーションという独自のルールがあり，このローテーションの重要性について定量化した研究は存在するが，サーブ権の有無（局面）や相手のローテーションについて考慮されていない．そこで本研究では，V2 男子リーグの試合データについて基本統計量を調べ，機械学習で予測することで，局面や相手のローテーションとの組み合わせを考慮した上でローテーションの重要性を定量的に分析した．その結果，自チームにおいてオポジットが前衛のローテーション（S1, S6, S5）が重要であることが分かった．それらのローテーションでは，アタックの決定・失敗の割合やブロックの関与本数において，勝利したチームと敗北したチームで違いが大きかったことが重要度を高めたと考えられる．

本研究のセールス・ポイント

バレーボールにおいてローテーションに関する分析は少ないため，より多くの人に来ていただき議論を深めたいと考えております．特に考察の部分に関しては，現場の人の声をお聞かせいただければ幸いです．



ビーチバレーボールに関する研究 —砂地を利用した新たなトレーニングメソッドの開発—

○佐藤国正, 溝上拓志, 桜井智野風 (桐蔭横浜大学), 白鳥歩 (日本体育大学)

キーワード: 砂地, 身体活動, トレーニング, ビーチバレーボール

目的

本研究は, ビーチバレーボールに関する研究を包括するなかでビーチバレーボールコート
の全国的な普及やビーチバレーボールの競技者人口の拡大を目下に据えながら, 砂地
におけるトレーニング効果の有効性や有用性について論じてみたい。砂地での身体活
動は, 精神的・身体的にも普段の生活では得ることができない効果をもたらすと考
えられているが, それらのスポーツや身体活動の遂行によって身体が受ける影響
や砂地におけるトレーニング効果に関しては明確にされておらず, 砂地を利用
したトレーニング効果の科学的な根拠の解明には至っていない。本研究では, 砂
地における活動がエネルギー消費量や筋活動に与える影響を明らかにすること
により, 砂地での活動が筋量の維持・向上に關与するという明確な知見を得る
ものである。砂地でのエネルギー消費量や身体動作における筋量の維持・向上
を論じる研究の余地について意義深いものと考えられる。

方法

本研究では, 成人男性および成人女性それぞれ 2 名を対象に, 歩行時・走行時・跳躍
時の身体活動時のエネルギー消費量測定および活動動画撮影を実施する。歩行 (3
分間), 走行 (3 分間), ジャンプ (30 秒間: 30 回) を行う。歩行および走行は, 呼
気マスク装着後に 1 辺 7m の四角形上を反時計回りで移動する。速度は歩行・時
速 3 km (3.36 km), 走行・時速 5 km (5.04 km) とする。ジャンプは, 呼気マ
スクを装着後に 1 秒に 1 回のリズムで 30 秒間の連続跳躍を行う。本研究にお
いて使用する測定使用機器は, 呼気ガス分析器 (エアロモニタ AE-310SRC, ミ
ナト医科学), 心拍センサー (POLAR), 歩行分析計 G-WALK (BTS 社), 映像分
析ソフト myDartfish ProS (ダートフィッシュ社) である。

本研究のセールス・ポイント

本研究で得られた知見は, ビーチバレーボールを包含するビーチスポーツに関する
全国的な普及や競技者人口の拡大, さらに砂地における活動が老若男女の身体
づくりにおける新たなメソッドを示すことができる点にある。

大学男子バレーボール選手におけるマウスガードの有無が メディシンボールスローに与える影響

○佐藤裕務 (NSCA ジャパン), 松井泰二 (早稲田大学スポーツ科学学術院)
太田武雄 (ホワイト歯科), 武田友孝 (東京歯科大学), 中島一憲 (東京歯科大学)
林光俊 (杏林大学医学部付属病院)

キーワード：体力測定, メディシンボールスロー, マウスガード, ストレングストレーニング, バレーボール

目的

大学男子バレーボール選手を対象に, カスタムメイドしたマウスガードを装着した条件 (M 条件) としない条件 (C 条件) に分けて, 4 種類のメディシンボールスローを行った. その測定結果をそれぞれの条件ごとに比較し, 各条件におけるマウスガード装着効果の違いを明らかにすることを目的とした.

方法

関東大学バレーボール連盟一部リーグ所属の A 大学男子バレーボール部に所属する 15 名の選手を対象に MB フロントスロー (BF), MB バックスロー (BB), MB 右サイドスロー (BR), MB 左サイドスロー (BL) を, M 条件と C 条件とで行った. M 条件においては試技の際, 強く噛み締めるよう, 対象者に指示を出した. その差をそれぞれの条件において, 対応のあるサンプルの t 検定を用いて比較した. また, M 条件と C 条件とでどちらが良い感覚で試技ができたか, 各対象者による個人の感想報告を行った.

結果

すべての種目において条件間に有意な差はみられなかった. しかしながら, M 条件における BF (MBF) においては, 「M 条件が投げやすかった」と感想を報告した 6 名中 5 名が高値を示した ($d=0.81$). 加えて, アウトサイドヒッターおよびミドルブロッカーの選手 9 名中 7 名においても, 同様に MBF において高値を示した. また BR においても, 「日常的に右打ちでスパイクもしくはサーブを打つポジションの選手」9 名のうち 6 名が M 条件 (MBR) で高値を示した ($d=0.59$).

考察

結果と対象者の感想報告により, 対象間でマウスガードが効果を発揮する例とそうでない例があると示唆された. BF は, サッカーのロングスローのような要領で体幹を伸展させた状態から屈曲方向へ動作を行い, 全身の大きな力発揮を用いてスローを行う種目である. 安定した咬合状態で強く噛み締めることはジャンプや重量挙げ等のパフォーマンスのような大きな力発揮を必要とする種目に好影響を与える可能性があり, 今後は大きな力発揮を必要とする種目においてマウスガード装着によって効果を発揮しやすい選手には, 積極的にマウスガード装着を活用してみる価値があると思われる.

結論

本研究においては, 対象間でマウスガードが効果を発揮する例とそうでない例があると示唆され, 特にマウスガードを装着することで効果を発揮しやすい選手は, 積極的にマウスガード装着を活用してみる価値があると思われる.

本研究のセールス・ポイント

本発表は実際に活動している大学男子バレーボール部を対象にしている. カスタムメイドされたマウスガードは口腔領域の健康を守ることができ, また装着することでパフォーマンスに効果を発揮しやすい選手は装着が推奨される. 本発表はバレーボール選手に対する口腔領域への啓発において貴重な基礎資料になると思われる.

女子 V リーグと大学を対象としたレセプションアタックにおけるレフト攻撃の成否に関わる要因：インシステムとアウトオブシステムに着目して

○田中響, 大工園彩夏 (鹿屋体育大学大学院)
沼田薫樹, 坂中美郷, 濱田幸二, 高橋仁大 (鹿屋体育大学)

キーワード：レセプションアタック, インシステム, アウトオブシステム, カテゴリースコア

一般的にレセプションアタック (以下 RA) ではレフトからの攻撃頻度が高く, レフト攻撃の成否に関わる要因を分析することは, 攻撃戦術を立てる上で重要な指標になると考える. また攻撃状況はインシステム (以下 IS) とアウトオブシステム (以下 OoS) に分類することができ (秋山, 2021), それぞれの攻撃状況における RA の成否に関わる要因を分析することで, 各システムのレフト攻撃における重視すべき指標を明らかにできるといえる. そこで本研究は V リーグと大学を対象に, IS と OoS それぞれにおけるレフトからの RA の成否に関わる要因を明らかにすることを目的とした. 対象とした試合は 2021-22 V.LEAGUE Division1 Women (以下 V リーグ) の上位 4 チームによる対戦 16 試合 61 セットと, 令和 5 年度関東・関西・九州大学女子一部秋季リーグ戦 (以下大学) のそれぞれ上位 4 チームによる対戦 18 試合 71 セットとした. RA の本数はそれぞれ 943 本, 1243 本であった. V リーグと大学の IS と OoS における RA の成否への貢献度を検討するため, 数量化理論 2 類を用いた. 収集したデータ (アイテム) は最も判別的中率が高いトス種類, 攻撃位置, 攻撃強度およびブロック枚数の 4 項目とした. その結果, V リーグと大学の IS と OoS において, 攻撃強度が最も RA の成否に寄与する結果となった ($p=0.01-0.00$). また, OoS において, レンジ (RA の成否に対する影響度を示す値) が攻撃強度に次いで大きい値を示したのは, V リーグがトス種類 (1.59) であり, 大学が攻撃位置 (1.71) であった. さらにカテゴリースコア (以下 CS) から詳細にカテゴリー別の貢献度を見ると, V リーグにおいては, セッター以外の選手がオーバーハンドを用いてトスを上げることが決定に貢献する結果となった. また, 大学においては, スロット 2 (レフトのアンテナから 1m 地点と 2m 地点の間の空間位置) で攻撃することが決定に貢献する結果となった. 次に IS においては, レンジが攻撃強度に次いで大きい値を示したのは, V リーグがブロック枚数 (0.79) であり, 大学が攻撃位置 (1.18) であった. また CS の観点から見ると, V リーグにおいては, ブロック枚数が少なくなるほど決定に貢献し, 大学においては, スロット 2 およびスロット 3 で攻撃することが非決定に貢献する結果となった.

本研究のセールス・ポイント

本研究は RA における攻撃状況をインシステムとアウトオブシステムに分類して分析した研究である. RA の成否に関わる要因を状況別に分析することは, 攻撃戦術を構築するうえで有意義な資料になると考える. 今後はさまざまな競技レベルを対象に, さらに条件を細分化し分析を行うことが必要である.

中学生女子バレーボール部を対象としたオンライン型部活動支援への試み —その 1 : 動画作成・YouTube 配信—

○高根信吾（常葉大学），大浜三平（NPO 法人スマイルクラブ）
塚本博之（静岡産業大学），松井泰二（早稲田大学）

キーワード：中学生，運動部活動，オンライン型支援，動画，YouTube

目的

競技経験のない教師が指導せざるを得ない状況にあるなど解決すべき問題を抱える運動部活動であるが、今後は地域移行が計画されるなど新たな局面を迎えている。このように運動部活動は過渡期にあるといえるが、どのような状況にあってもバレーボール部では選手一人ひとりが成長する機会を提供する必要がある。特に、中学生にとっては、バレーボール部の活動において、初めて競技としてのバレーボールに関わる機会を得ることがほとんどであろう。そして、少年団などに所属し、小学生時代に競技経験を持っていた場合でも、中学生では使用するボールやネットの高さ、コートが大きさが異なり、さらに、ローテーションもあることから、それまでの経験を踏まえつつも新たな練習が必要になることはいうまでもない。本研究では、上述したような競技経験のない教師が指導せざるを得ない状況や初めて競技としてのバレーボールに関わる状況下においてもバレーボールを練習したい、上達したいと願う選手のための新たなオンライン型支援を企図している。

方法

いつでも、どこでも、誰でもアクセスできる動画コンテンツとして、主な対象を中学生女子としたバレーボールの練習メニュー動画を作成し、YouTube 配信する。動画では、正しいボールの落下地点に入ることを目論んだ初心者用からパスの方向変換を練習する応用編まで、また、一人や二人などの少人数でも実施できるメニューからチーム練習メニューまでを用意した。動画作成の手順としては、練習メニュー検討（2023/6-7）、絵コンテ作成・音声原稿作成（2023/7-8）、撮影・音声録音（2023/8）、編集（2023/8-12）、6名のモニターによる確認（2024/1）、YouTube 配信（2024/2）であった。

今後の展開

今後は本研究で企図したオンライン型部活動支援の有効性について検証を行う予定である。作成した動画を 2/4 から YouTube 配信し、それを視聴した者が書き込んだコメントやメールなどに寄せられた意見を基に、選手として、あるいは、指導者としてのニーズを把握し、分析を行う。具体的には、得られたテキストデータに対し、計量テキスト分析ソフト KH Coder3 を用いて分析を行う。

付記：本研究は NPO 法人スマイルクラブが配分を受けた「2023 年度日本郵便年賀寄付金」助成事業として実施されたものである。

本研究のセールス・ポイント

初心者が「どのような練習をすればよいのか」というニーズに応えるべく 3本の動画を作成しました。Vol.1 ウォーミングアップ&パス（17分）、Vol.2 パス&ミニゲーム（21分）、Vol.3 スパイク・ブロック サーブ・レセプション セット（15分）。視聴頂き、ご感想やご意見をお寄せ頂きたいと思っております。

バレーボール界ではなぜ専門シューズを履かない選手が多いのか ～複数のシューズを履いた時の跳躍高・地面反力の検討～

○原結実香(東海大学大学院), 小澤悠(東海大学), 藤井壮浩(東海大学), 小澤翔(東海大学)

キーワード】 スポーツシューズ, ジャンプパフォーマンス, 傷害予防

バレーボール競技はジャンプ動作が多いことから, クッション性やグリップ力等の機能性を重視しシューズが設計されている. しかし, 一部の選手は他の競技用シューズを使用し競技を行うようになった.

Brizuela et al. は垂直跳びにおいて, バスケットボールシューズの足首のサポート性を高めると, 着地時の衝撃荷重は増加しジャンプパフォーマンスが低下すると明らかにしている. しかし, 複数の競技用シューズの比較は行われていない. そこで本研究では, 大学女子バレーボール選手が着用している 2 種類のシューズで, 跳躍高と踏込時・着地時の地面反力 (GRF) を比較し, シューズによる効果を検討した.

被験者は関東大学 1 部に所属する女子バレーボール選手 13 名 (170.2 ± 6.5 cm, 64.5 ± 8.1 kg, 20.6 ± 1.3 歳) とし, バレーボールシューズ (VS) を使用している 8 名を UV 群, ハンドボールシューズ (HS) を使用している 5 名を UH 群とした. シューズは, VS (ROTE JAPAN LYTE FF 3, ASICS 社製), HS (ウエーブステルス V, ミズノ社製), コントロールシューズ (上履き, Achilles 社製, CS) の 3 種類とし, 被験者にスパイクジャンプを行わせた. 跳躍高はヤードスティックを用いて計測し, 地面反力は 4 枚のフォースプレートを用いて測定した.

跳躍高, 踏込時・着地時の GRF では, UV 群と UH 群の 3 つのシューズで有意な差はみられなかった. しかし, UH 群において踏込時の GRF は VS が 2666.8 ± 274.8 N, HS が 2663.5 ± 442.7 N, CS が 2772.8 ± 363.7 N となり, 2 つのシューズと CS の間に 100N ほどの違いがみられた. また, 着地時の GRF において, UV 群は VS が 3911.6 ± 988.6 N, HS が 3718.3 ± 622.0 N, CS が 4133.0 ± 1070.3 N, UH 群は VS が 4497.6 ± 1211.2 N, HS が 4745.3 ± 1392.9 N, CS が 4891.8 ± 1300.4 N であり, VS と HS が低値を示した. 跳躍動作の多い競技用シューズは, クッション性が高いことで GRF において低値を示したと考えられる. また, VS と HS に違いがみられない要因としては, より高いパフォーマンスと傷害予防を達成するために設計されていることが考えられる.

本研究のセールス・ポイント

シューズの研究は, 陸上競技やインソールにおいては多数されているが, バレーボール競技における着用シューズの違いによるパフォーマンスの違いを検討した研究は見られない. 本研究で, 着用シューズの違いによるパフォーマンスの違いを評価することは新規性が高いと考えている.

バレーボール特有のバックスイングを用いた跳躍と肩関節機能の関連

○板谷颯, 築瀬康 (同志社大学)

キーワード：バックスイング, ジャンプ, 肩関節機能

目的

スパイクやジャンプサーブの跳躍直前には、後方から前方への腕振り動作（バックスイング：BS）が伴う。BS を行うことにより、地面からの床反力を得ることで跳躍力を生み出すことが明らかになっている。（Mackay, H, BJSM. 2023）BS は主に肩関節動作（肩関節伸展位から屈曲位への動作）であり、肩関節機能（筋力や柔軟性）が優れているほど、力強い BS、そして高い跳躍高に繋がる可能性がある。そこで本研究の目的は、BS を用いた跳躍と肩関節機能の関連を明らかにすることとした。

方法

健常男性 30 名（年齢：20.9±1.3 歳，身長：173.4±5.1cm，体重：64.2±9.9kg）が本実験に参加した。マルチジャンプテスト II（株式会社 Q'sfix, 日本）を用いて、BS 有と無の 2 条件でカウンタームーブメントジャンプ (CMJ)，スクワットジャンプ (SJ) の跳躍高を計測した。肩関節機能として、肩関節可動域（屈曲・伸展・外転・水平外転），肩関節筋力（屈曲・伸展・外転・水平内転），肩周囲の筋弾性率（大胸筋上・中・下部，小胸筋，僧帽筋上・中・下部，広背筋）を計測した。正規分布を確認後、ピアソンの積率相関係数またはスピアマンの順位相関係数を用いて、跳躍高と肩関節機能（可動域，筋力，筋弾性率）の関連を調査した。

結果

BS 有の CMJ について、跳躍高と全ての筋力（屈曲・伸展・外転・水平内転）に有意な正の相関を認めた。BS 無の CMJ では、跳躍高と屈曲筋力のみ有意な正の相関を認めた。跳躍高と屈曲筋力の相関について、BS 有が BS 無より高い相関係数を示した（BS 有 $r=0.625$ ，BS 無 $r=0.445$ ）。BS 有の SJ では跳躍高と筋力（屈曲・外転）に有意な正の相関，BS 無の SJ では跳躍高と筋力（屈曲・伸展）に有意な正の相関を認めた。跳躍高と他の肩関節機能（可動域や筋弾性率）に相関は認められなかった。

考察

以上のことから、BS 無と比較し、BS 有の CMJ では、肩関節筋力が跳躍高に影響している可能性がある。本研究の限界として、横断研究であるため、関連の因果関係は不明である。今後は肩関節の筋力トレーニング前後で跳躍動作を評価し、その効果を検証するべきである。また、跳躍動作は上肢だけでなく下肢や体幹の影響も大きく受けるため、下肢と体幹の関与も考慮した実験デザインが必要である。

本研究のセールス・ポイント

バレーボール競技の多くの跳躍場面においてバックスイングを伴うが、本研究ではそのバックスイングを伴った跳躍には肩関節筋力が影響している可能性を示した。バレーボール選手のパフォーマンス向上に対して、新たな視点を提供する発見となった。

バレーボールコート後方からの映像による V リーグ男子選手のスパイク動作分析

○村本名史（常葉大学），佐藤重芳（茨城県立筑波高等学校）

キーワード：V リーグ，男子選手，スパイク動作

目的

バレーボールコート後方からビデオカメラ 1 台で撮影した公式戦の映像を用いて，V リーグ男子選手のスパイク動作を分析することを目的とした。

方法

2022 年 11 月から 2023 年 3 月に実施された「2022-23 V. LEAGUE DIVISION2 MEN (V2 男子) のレギュラーラウンド 3 試合において，アナリストがバレーボールコート後方から撮影したビデオカメラ映像（解像度：High Definition【1280×720，92 万 1,600 画素】，30fps）を用いて，V2 チームに所属するアタック決定率がリーグ上位であった男子選手 1 名（オポジット，打球腕は右）のスパイク動作を分析した。分析対象としたスパイク動作は，カメラ手前側コートにおけるライトでのハイセットとし，対象選手の離床（take off）から着床（landing）までの全身が観察できた 8 試行とした。動作分析には Frame-DIAS6（Q' sfix 社製）を使用し，身体の計測点として 18 ポイント（頭頂，胸骨上縁，肩，肘，手首，手先，大転子，膝，足首，足先）を設定し，2 次元 DLT によってバターワース型ローパスフィルタで 20Hz 以上の高周波を遮断して分析した。なお，コントロールポイントにはバレーボールコートの特徴点であるセンターラインの左右両端，左右アンテナ上端とネット上下端との交点という計 8 ポイントを用い，打球時における右手先の高さ（打撃手高），右手先の合成速度（打撃手速度），各所の身体部分係数から算出した合成重心の高さ（重心高）を算出した。

結果

打撃手高は 2.99m，打撃手速度は 5.27m/sec，重心高は 1.68m であった。

考察

我々は世界一流男子選手のスパイク動作を 3 次元 DLT で分析し，平均値は打撃手高 3.26m，打撃手速度 19.72m/sec，重心高 2.05m であったことを報告した（村本ら 2020）。今回の打撃手高と重心高は世界一流選手に比べて低かったが，この差には高い位置からの撮影映像を 2 次元 DLT 法で分析したことによって生じた測定誤差が含まれることが考えられる。また，本研究における打撃手速度は世界一流選手に比べて非常に小さかったが，これはバレーボールコート後方からのカメラ 1 台による撮影と分析の限界を示すものであり，奥行きを 2 次元 DLT によって評価することが困難であることが明らかとなった。

本研究のセールス・ポイント

バレーボールコート後方から 1 台のカメラで撮影した戦術分析用のビデオ映像からでも，精度向上の必要性はあるが，手前コートであれば選手の動作分析が可能であることが示された。

アンダーハンドパスをもちいたパスのばらつき特性と競技特性との関係

○小澤悠（東海大学）

キーワード：speed accuracy trade-off, パス飛距離, 正確性, 分散, 変動係数

緒言

ヒトが運動する際、同一課題であってもバラツキが生じ、随時修正しながら生活している。このばらつきはポイントングなどの単純な動作だけではなく (Peternel, et al., 2017), スポーツの動作においても多くみられ (Hunter, et al., 2018), そのばらつきは動作方向に大きく依存することが明らかになっている (Peternel et al., 2017)。スポーツにおける動作の正確性の研究は野球の投球動作 (Kawamura et al., 2017) のように片手もしくは片足で行われるものが多いが、バレーボールのパスは両手で行う独特な動作様式を持つことから、パスのばらつきに特性が見られると考えられる。そこで、本研究の目的は、バレーボールの基本技術であるアンダーハンドパスの飛距離の違いによるばらつき特性の違いを明らかにすることを目的とした。

方法

被験者は3年以上のバレーボール競技歴をもつ男子学生 11 名とした。パスしたボールを三次元 DLT により落下前後の位置座標を取得し、ボール位置座標の最下点をボール落下位置と同定した。なお、前後方向（パス方向）を Y 軸、左右方向を X 軸、鉛直軸方向を Z 軸とした。3m, 5m, 7m, 9m, 11m の 5 種類の異なる距離からアンダーハンドパスを行わせ、それぞれのボール落下地点のずれとばらつきを検討した。

結果および考察

飛距離が伸びるにつれて、ターゲットより被験者側に平均落下点が移行していた。これはバレーボールの競技特性によりこのような結果が得られたと考えられる。パスの落下点のばらつきを運動方向軸（Y 軸）とその垂直軸（X 軸）成分で比較したところ、3-7 m においてはパス方向のばらつきが有意に高値を示したが、9m, 11m 試技においては、両軸間に有意な差は見られなかった。一般に運動や投射物のばらつきは運動方向を長軸とした楕円形を示す (Kawamura et al., 2017)。前述の通り、バレーボールのパスは飛距離が長くなりすぎると失点に直結する。そのため、運動方向へのばらつきが抑えられる傾向が見られた。本研究の結果から、運動のばらつきは運動方向だけではなく、長年の訓練によりそのばらつき特性が変化する可能性が示唆された。

本研究のセールス・ポイント

ヒトの運動のばらつきは運動方向に長軸を持つ楕円形となるといわれている。しかし、本研究の結果はその通りでなく、競技特性による運動のばらつきの変化がおこったとかがえられる。これは避けることのできないばらつきを訓練により変化させることができる可能性を示唆しており、他に類を見ない重要な研究結果といえる。

V リーグに加盟する企業スポーツチームの経営に関する研究-CSV の視点から

○武田義也（富山大学大学院）

キーワード：企業スポーツチーム，S-V リーグ，CSV 経営

緒言

V リーグはプロチーム，クラブチーム，企業スポーツチームが混在するリーグ形態であり，その中でも企業スポーツチームが大半を占める。V リーグ機構は 2024-25 シーズンより新リーグ（以下，「S-V リーグ」）構想を発表した。母体会社の法人格の設置やユースチームの設置，売上高の基準の設定，選手のプロ化を念頭に置いており，既存の V リーグより参入障壁が高く設定されている。S-V リーグ参入を検討するチームはこれらの参入基準を満たす必要がある。よって本研究の目的は，S-V リーグの実現と成功を視座に置き，地域社会への社会的及び経済的価値の創出について企業スポーツチームの成長プロセスを CSV の視点から検討する。

方法

研究対象は V リーグ加盟の企業スポーツチーム A 社 B チームとした。B チームは C 県 D 市を本拠地とするバレーボールチームである。分析手順 1) トリプルミッションの「勝利」「普及」「市場」の各概念に当てはめて B チームの現状分析を行う。分析手順 2) B チームの CSV 経営の可能性について検討を行う。

結果・考察

本研究の結果，トリプルミッション分析「勝利」においては V1 リーグにおいて最高順位 8 位であり上位のタイトルを手にしていない。「普及」において観客動員数が V1 リーグの平均を下回っていた。「市場」におけるチーム収入構成比ではスポンサー料が全収入の中で 80.0% を占めており，チーム支出構成比においては人件費が 65.0% と主要割合となっていた。特定項目に偏りのある経営構造が示された。今後はスポンサーに依存するマネジメントから，自主財源を積極的に確保していく必要があると推察される。そのためには従来の CSR 活動から脱却し，「戦略的 CSR 活動」を策定し実行していく「CSV 経営」への転換が示唆される。また地域での CSR 活動は積極的に行われているがチームとステークホルダーとの 1 対 1 の関係性の構築に留まっている。行政，学校，地域コミュニティ，企業などの多様な関係者を結集し共通の目的に向かって連携する中で企業スポーツチームが「ハブ」としての役割を担う事が今後検討される。社会的価値の創出に向け地域課題に取り組みながら「経済的価値」創出に寄与することは企業スポーツチームの新たな次元を開拓する可能性が示唆された。これら企業スポーツチームの取り組みが S-V リーグ隆盛につながると予測する。

本研究のセールス・ポイント

本研究は S-V リーグの隆盛を視座に置いた研究である。V リーグに加盟する企業スポーツチームはこれまで対外的なチームデータは公表されていないケースが通例であったが本研究ではデータを提供頂き分析を実施できたことは評価に値すると捉えている。今後のリーグ運営及びチーム経営を再考する一助となることを期待したい。

バレーボール競技における攻撃参加人数とブロック動作反応時間の関係

○黒川貞生（明治学院大学），榎本翔太（岡山大学）

キーワード：ブロック，反応時間，Hick の法則

目的

バレーボール競技において，ブロックは勝敗を左右する重要な技術の 1 つである．リードブロックにおいて，その動作過程は以下のように考えられる．①相手がセットしたボール位置の視覚による判断 → ②ブロック位置への移動に参与する筋群へのインパルス発射 → ③参与する筋腱複合体の活動によるトルク出力 → ④身体の水水平および垂直方向への移動．

Hick らは「選択肢の数」と「人が意思決定するまでの時間」の関係性を示し，選択肢 2 つを最小と考えて，3 つ，4 つ，5 つ・・・と選択肢が増えれば増えるほど，人の意思決定にかかる時間は長くなることを報告している．

この法則に基づくと，攻撃のスロットを増やせば，上記の①，②および③が遅延する可能性がある．つまり，バックアタックを含め攻撃の参加人数を増やせば，ブロックの移動開始が遅れることが推測される．現代のバレーボール競技では，バックアタックを含めた 4 人あるいは 5 人攻撃が，特に男子では，主流となっている．

そこで本研究では，攻撃の選択肢（攻撃に参加する人数）が増加した場合に，それらの攻撃に対するブロックの動作開始までの時間を測定し，両者の関係性を検討した．

方法

被験者：関東大学 2 部に属するバレーボール選手 6 名

測定手順：5 種類のセットを被験者（ブロッカー）に示すために，自作の光シグナル提示装置を作成し（A クイック，レフト平行，ライト平行，セッター前方および後方でのパイプ）し，提示された光刺激に対してブロック動作を行わせた．最初に単純反応時間を測定するために予め周知した光刺激を提示して，ブロック動作開始までの反応時間を測定した．続いて，3 択（A クイック，レフト平行，ライト平行）および 5 択（A クイック，レフト平行，ライト平行，セッター前方および後方でのパイプ）の光刺激に対するブロック動作開始までの反応時間を測定した．なお，本実験の反応時間は，光刺激の提示から左右の脚の地面反力の変化までの時間とした．

結果および考察

データ処理の途中であるが，予め周知した光刺激に対するブロック動作開始までの反応時間に対して，3 択では反応時間が延長する傾向であった．また，3 択に比較して 5 択ではさらに延長する傾向であったが，現時点においては，統一的でなかった．

今後，データ処理を完了し，バレーボール競技の攻撃参加人数とブロック動作の反応時間の間にも Hick の法則が成り立つかを報告する予定である．

本研究のセールス・ポイント

Hick の法則がバレーボール競技に行ける攻撃参加人数とブロック動作反応時間との間にも適応できるのかを確認したこと．



入会案内

1. 学会のコンセプト

日本バレーボール学会は、これまでのバレーボールに関する研究を体系化すると共に、情報交換の場の設定等を通じて新たなバレーボール学の構築を目指しております。1996年にバレーボール研究会を発足させ、ついで1999年には名称をバレーボール学会へと発展的に改め、2009年に国際的な連携を考慮し、日本バレーボール学会と改め、今日に至っております。今後もバレーボールを科学的な側面から研究すること、バレーボールのコーチングの場で役に立つ情報の提供等を行い、バレーボールの普及・強化のために資することができるように、より積極的・活発な活動を展開します。

2. 入会手続き

本会に入会を希望される方は、学会ホームページの『入会のご案内』から、『入会登録フォーム』に必要事項を入力の上、『申込ボタン』をクリックしてください。その後、なるべく早期に下記振込先に、今年度の年会費をお振り込みください。年会費(4月から翌年3月まで)は正会員5,000円、学生会員3,000円です。

入金が確認された時点で日本バレーボール学会会員となります。入会申し込みのみされて、年会費が納入されない場合、納入されるまでの期間は、仮会員として処理させていただきます。

日本バレーボール学会 事務局

E-mail : jsvr.office@gmail.com

ホームページ : <http://www.jsvr.org>

振込先 : ゆうちょ銀行 支店名 : ○二九店 (ゼロニキュウ店) 預金種目 : 当座
口座番号 : 00240-2-66791 口座名称 : 日本バレーボール学会

なお、入会後の年会費については口座自動引き落としの手続きを進めておりますので、入会后事務局からの預金口座振替依頼書を送付します。預金口座振替依頼書に必要事項をご記入・押印の上、日本バレーボール学会事務局までご返送ください。



広告協賛企業一覧



FIVB世界クラブ男子選手権大会2023

バレーボールクラブチームの世界一を決めるFIVB男子バレーボールクラブ世界選手権が12月6日から10日の間、インドのバンガロールで開催されました。

出場6チームが3チームずつの2つのグループに分かれ、3日間のグループ戦を経て、各グループの上位2チームがトーナメントに進出する大会形式です。サントリーサンバースは予選を1位で通過し、決勝トーナメント進出を果たしました。

9日の準決勝ではブルセットの末に敗れましたが、10日の3位決定戦では2セットを先取してから、逆転勝利し銅メダルを獲得いたしました。今大会でデミトリムセルスキー選手がベストオポジット賞を受賞しました。「大阪から世界へ踏み続ける」をミッションに掲げ、スローガンである「PLAY HARD」を体現し、チーム一丸となって闘った銅メダルです。

サンバースは今後も世界を舞台に戦えるチームになれるよう邁進いたします！



大会の開催は株式会社サントリースポーツが主催です。

3位決定戦 12月10日 (日)

○サントリー 3-2 ハルクバンク スポーツクラブ●

準決勝 12月9日 (土)

●サントリー 2-3 イタンペスナス○

予選2日目 12月7日 (木)

●サントリー 2-3 サダ アルゼイババレー○

予選1日目 12月6日 (水)

○サントリー 3-0 ハルクバンク スポーツクラブ●



2023アジアバレーボールクラブ選手権大会 金メダル獲得

2023年5月に開催された「2023アジアバレーボールクラブ選手権大会」で日本勢初の優勝を果たし、「FIVB世界クラブ男子選手権大会2023」の出場権を確保いたしました。

決勝 5月23日 (日)

○サントリー 3-1 インドネシア●

準決勝 5月20日 (土)

○サントリー 2-2 イラン●

5月19日 (金)

○サントリー 3-1 インドネシア●

5月18日 (木)

○サントリー 3-0 韓国●

5月18日 (水)

○サントリー 3-1 イエメン●

5月15日 (月)

○サントリー 3-1 韓国●

5月14日 (日)

○サントリー 3-2 中国●

大阪から世界へ



広告協賛企業一覧

「森」はついでに育てる準備
日本人の残っているじつは、
比喩的な意味で、上河の森は呼びかけで
知られざる「森」である。

それです
もしも、
かかっている森が、
「中村」の森にお任せです！
詳しく、
お申し込みください。

《丁寧な森の育て方》

JTの森

草刈り
間伐
伐倒

元気の森を育てるには、ただ木を植えるだけでなく土壌の肥が施すまで細くよう手入れが必要です。
そこでJTは、人手が足りていない森を一定期間借り受け、植林後の草刈りから間伐、伐採などを行い
丁寧に森を育てる「JTの森」という森林保全活動を進めています。

JT
JTB
JTB



広告協賛企業一覧

2つの特許で プレーをサポート

温泉鉱石とオーガニック穀物炭を原材料にした、
神経コンディショニング素材「スパオール」。
「重心安定」「血流促進・リラクゼーション」の
2つの特許技術でプレーをサポートします。

特許素材スパオール









WATスパオールTシャツ ¥4,950
※背面積にスパオール加工



**体幹
安定**

歩行時や運動時など
体幹が安定し、疲れにくい



加重時にバランスが崩れにくく、重心が安定



**血流
促進**

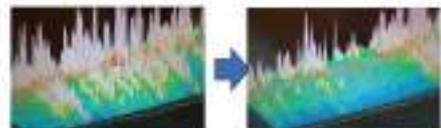
血流がよくなり冷えも改善。
体温アップにつながります。



**リラク
ゼーション**

リラックス効果、眼球振動
抑制、睡眠の質向上

●脳波(リラクゼーション)



各種試験によって効果検証されています。
ウェア、サポーターなど様々な商品にも加工できます。
お気軽にお問い合わせ下さい。



株式会社 WAT
東京都台東区下谷 2-15-4-5F
Tel: 03-6802-3338 Fax: 03-6802-3348
www.wat2.tokyo



広告協賛企業一覧

驚くほど体の調子が変わるインソール



SUPERfeet
スーパーフィート with you



スーパーフィートってなに？

- アメリカの足病医学に基づく理論背景をベースに誕生した、プレミアムなインソール(靴の中敷き)です。
- 足を適正にサポートする三次元の立体構造で、アメリカ国内外で40にものぼる特許を取得しています。
- スーパーフィートは、足元を安定させ、歩行や運動時に「足」本来の機能が発揮できるようサポートします。

どんな人が使っているの？

- ごく一般のユーザーから、プロアスリートまで幅広く使われています。
- もちろんVプレミアの選手も！
- 足の骨を矯正する力があることから、痛みなど様々な足のお悩みがある方向けに医療の現場でも選ばれています。

使っている人の感想は？

- スーパーフィートそのものは硬いのには驚くと柔らかい感じがする、という声は多いです。肩平足、外反母趾、足底筋膜炎、マメ、ウオノメが改善された、というお客様もたくさんいらっしゃいます。
- 寝れにくくなったという感想もあります。重心が自然にカカトに移るので姿勢を正しく保つことができ、疲労軽減効果が期待できます。
- アスリートのお客様からパフォーマンスが上がった、といううれしいお声も！

もう少し詳しく知りたい！

- スーパーフィートには、標準的な足型に合わせた既製品「トリム」と、個人の足形にぴったりと合わせて成形する「カスタム」があります。
- カスタムの特徴は、足を浮かせた「無荷重状態」(ニュートラルポジション)で成形することです。自然なアーチで成形できるため、常に正しいアーチをサポートすることができます。
- これにより人間の持つカカトの衝撃吸収機能が十分発揮され、足骨格が整い、足指のストレスを軽減して故障の発生を防止します。

どうやったら買える？

- スーパーフィートは製品の特性上、足の状態に合わせた商品をお選びいただくことが最も大切です。
- 当店では足に関する専門家「足助官師^{あしじょげんし}」がお客様お一人ひとりの足やシューズ拝見し、総合的にアドバイスさせていただきます。
- 製作時間はカスタムでおよそ20～30分。スーパーフィートTECH1.2.3.4の合格資格を持ったスタッフが責任を持って作製します。ぜひ当店までご連絡ください。



▲お足裏の形状で成形することで、自然な足のアーチをサポートできるインソールに

足助官師(あしじょげんし)とは？

- 毎日足のこと、身体のこと、スポーツのこと、シューズのこと、たくさんのことを総合的に勉強しながら、お客様にアドバイスするという意味で「足助官師」を名のらせてもらっています。
- お客様の足やシューズを実際に拝見し、お悩みなどについてお聞きしながら、最適なシューズやインソールをおすすめしています。
- 「自分の足は普通」と思っている方でも、意外と多くの方がオーバープロネーション(過剰回内)などの問題を抱えています。
- お気軽にご相談ください。



北信エリア販売実績NO.3 足助官師がいる店

スポーツショップ 日新

☎026-245-0272

E-mail:nissin-sp@stvnet.home.ne.jp

〒382-0077 長野県須坂市北横町1303-1(須坂駅前) FAX026-245-2559 水曜 10:00-19:00 (2月末日まで休店)



広告協賛企業一覧

すべてのバレーボールを応援します



月刊バレーボール VOLLEYBALL

定価950円(税込)

毎月15日発売

選手のインタビューや
うまくなる技術特集
各大会の詳しい
レポートなど
お役立ち情報満載

月刊バレーボール
VOLLEYBALL
5月号は

2024年4月15日発売予定
予価950円(税込)

男子Vリーグ 結果

男女日本代表 特集

パリオリンピッククイヤーのVNL開幕迫る

新年度
応援号

最新情報は
月刊バレーボール
公式Webサイト
「月バレ.com」
やSNSをチェック

詳しい内容とお申し込みは

SPORTS MAGAZINE & GOODS

日本文化出版オンラインショップ本店

NBP OFFICIAL ONLINE SHOP

<https://shop.nbp.ne.jp/>



下記オンラインショップ、全国書店にてお求めください

お得な定期購読も要チェック



広告協賛企業一覧

スポーツ科学分野において画期的ともいえる1冊が
ついに日本語版になって発売！



NSCAジャパン
ウェブサイトにて
発売中!!



NSCA スポーツ科学の基礎知識

Duncan N. French, Lorena Torres Ronda 編

日本語版総監修 柴田 真志 / 監修 小林 秀紹

発行 NSCAジャパン

一般価格：12,500円 (税別) / 会員価格：11,250円 (税別)

本書は様々な分野や専門領域で働いている、現代のスポーツ科学者の役割を明確にする助けとなり、「スポーツ科学者」と呼ばれる人々の役割と責任、要求される専門知識について、最も包括的な知見がまとめられています。

目次

PART I トレーニングの理論とプロセス

- 第1章 パフォーマンスの多面性
- 第2章 トレーニング負荷モデル
- 第3章 個人成長のためのピリオダイゼーションとプログノズティング
- 第4章 チームスポーツのためのピリオダイゼーションとプログノズティング

PART II ニーズ分析

- 第5章 重要パフォーマンス評価指標
- 第6章 プロファイリングとベンチマーキング

PART III テクノロジーとデータの子配

- 第7章 テクノロジーの導入
- 第8章 データの衛生管理

PART IV 外的・内的負荷のデータ収集

- 第9章 トラッキングシステムと負荷モニタリングの概観
- 第10章 トラッキングシステムと負荷モニタリングの分析
- 第11章 運動学と歩行分析
- 第12章 運動力学とフォースプレート
- 第13章 筋力のトラッキングと分析
- 第14章 心拍数と心拍変動
- 第15章 脳波測定と神経筋電図
- 第16章 健康とパフォーマンスのためのバイオマーカー
- 第17章 筋力の知覚と主観的モニタリング

PART V データの分析と出し方

- 第18章 統計モデル
- 第19章 傷害リスクモデル
- 第20章 データマイニングと非線形データ分析
- 第21章 データの配信と報告
- 第22章 パフォーマンスへの介入とデータ連携

PART VI 専門トピック

- 第23章 リカバリーと睡眠
- 第24章 エネルギー供給と栄養
- 第25章 環境ストレス
- 第26章 精神生理学：精神疲労への対応としてのフロー状態
- 第27章 パフォーマンスへの神経科学的アプローチ
- 第28章 運動パフォーマンス
- 第29章 傷害のスポーツ科学

PART VII 教育とコミュニケーション

- 第30章 学際的サポート
- 第31章 情報発信



広告協賛企業一覧



祝 日本バレーボール学会第29回大会



スポーツ用品・体育器機・全般

有限会社 甲府スポーツ

山梨県甲府市武田3-1-9

TEL 055-252-6556 FAX 055-252-6553



スポーツを頑張る人を
応援いたします。





広告協賛企業一覧

NIKOU

スポーツケアルーム



当院ではバレーボールサポートを
専門に行っています。



@NIKOU.SPORTS.CARE ROOM



広告協賛企業一覧

スポーツで生きていく。
スポーツと生きていく。

PANTHERS

VOLLEYBALL TEAM PANTHERS

V.LEAGUE DIVISION1 MEN パナソニックパンサーズ 公式SNS

チームの情報をリアルタイムで発信中！ファンのお役にここでも見逃さない選手の裏面や、パンサーズ情報をお届けします。気に入った投稿にはぜひいいねやシェアをして、ファン同士の輪を大きくしてください！

--	--	--	--	--	--	--	--



広告協賛企業一覧

バ
レ
ー
ボ
ー
ル

V-SWIFT FF 4

助走から最高到達点まで、
ブロッカーを振り切るスピードを。
流れるようなスパイクモーションに、
ココロも加速する。

#ココロも前へ動き出す。

誰よりも先に、
最高到達点へ。


sound mind, sound body